

東洋精器工業の新製品

アライメント ステスタ LABO A750Eデビュー

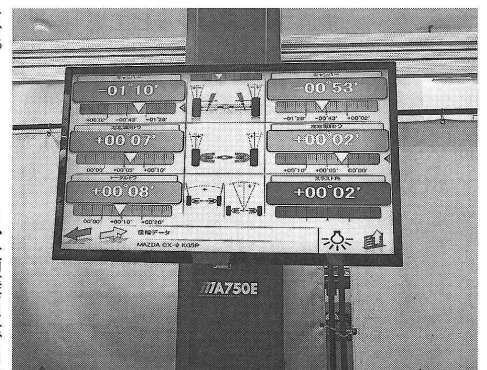
東洋精器工業は、創業80周年記念モデルとしてアライメントステスタの新商品「LABO A750E」を発売開始した。上位機種機能を備えながらリーズナブルな価格で販売することにより、投資の早期回収、さらに工賃収入獲得に寄与する。取り回し性も良く、一人作業も簡単に行えるうえ、測定作業も短時間という、早速同社に飛び、商品概要について聞いた。(木本)

新商品「LABO A750E」が従来品と比べて柱の高さが低い(約700mm)の商品特長について、同社販売企画部の森本課長は「アライメントステスタは当社が販売を開始してから30有余年。現在の計測方式が誕生して世界レベルでもっと長い歴史があります。ですから性能自体はこのメーカーさんでも大抵横並びでほとんど差がない状態になっているように思います。そこで今回新商品を投入するにあたり、品質や性能を落とすことなく、価格を抑えた製品をご提供できないか、と考えました」と語る。

早速、実機を見せてもらった。まず目を引くのは、調整作業前にリフトに潜った状態で見るサブモニター、これまでは全モニター、設定でしたが「LABO A750E」は標準装備といたしました。表示される数字も大きく、リアの調整時にも見やすく作業しやすいと思います」と森本さん。確かに実際にサブモニターはとも見やすく、これは欲しい装備であると感した。



ホイールクランプは超軽量



大きく見やすいモニター画面

調整前のデータが表示される。メーカー設定の基準値の範囲内に入っていれば緑、範囲外であれば赤い表示になる。クランプを取り付け始めてからわずか10分程で測定が終わった。

「A750Eは足回りを換えた後や事故をした後の診断に有効な車両寸法表示も可能です。上位機種と同等の機能を備えています。近年、機器の価格高騰によりアライメントビジネスは収益的に厳しくなってきたという声を耳にすることが多くなっていました。その不安を少しでも解消しようと開発しました。

り、大型乗用車でも一人で作業することが可能になった。昔は30度とかかなり車を動かさなければなりません。キーボード操作でビームが下降しカメラがターゲットを認識するとカメラ周辺

一人でもラクラク作業

集客増加、工賃収入UPに貢献

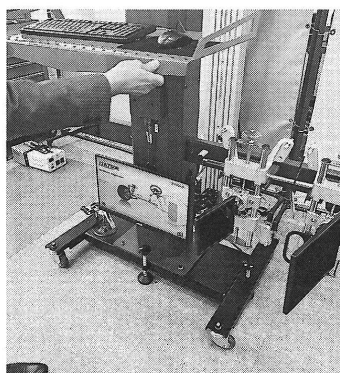
小さく軽くなっています。フロント用キロ、リア用1.5キロ。持ち手も付いており持ちやすく作業中に落下させるリスクも減らしています。

ホイールクランプは21インチまで取り付け可能なで、それ以上大きなホイールになるとオプション設定の延長アダプタを装着する。アダプタを付ければ26インチホイールまで対応することが可能。森本さんの動きは軽く、ものの2、3分で装着が終わってしまっ

測定は6.0メガピクセルHDカメラソフトを認識するとカメラ周辺

の赤いLEDの色が緑になり、測定が始まる。高画質カメラを採用したことにより計測ターゲットの小型・軽量化が可能になり、さらに従来の図形印刷方式からレーザー彫刻方式に変更したことで、精度・安定性が向上したそうだ。

続いてプリントアウト補正作業に移る。車を移動させるのは後ろに15度程度ほんの少し動かすだけで測定できる。作業者の負担が格段に軽くな

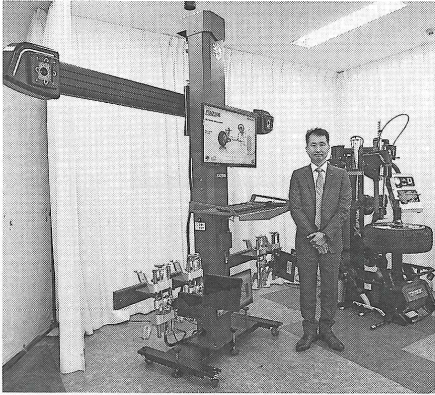


モバイルベースで移動できる

新規導入・代替え導入はもちろん、代替えを行いたくても予算面で断念された方、我々はそのようなお客様にも再度ご検討いただける商品だと自負しております」と森本課長は語る。

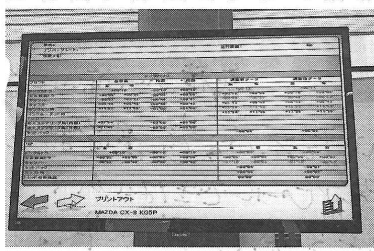
LABO A750E。プロショップとして一段上の整備を強化し、工賃収入の安定獲得に最適な機種が登場した。まさに注目のモデルといえるだろう。

新商品「LABO A750E」を森本課長



新商品「LABO A750E」を森本課長

測定結果はプリントアウト可能



測定結果はプリントアウト可能